

第4回景況感・経営環境調査 結果 [下期(2024年7～12月)]

令和7年6月9日 倶知安商工会議所

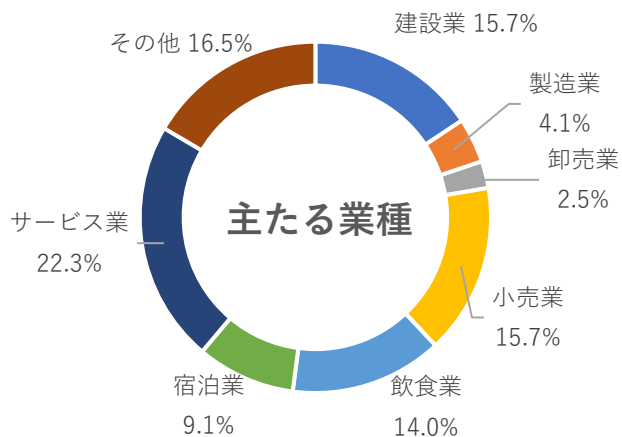
〈調査概要〉

1. 調査実施期間 令和7年3月7日～3月21日
2. 調査対象 当所会員545事業者
3. 調査方法 調査票を郵送・メールし、持参・FAX・アンケートフォームで回収
4. 有効回答数 121件 (回収率22.2%)
5. 調査内容 ①景況調査(2024年7～12月期)
②経営環境調査(人材、事業承継、BCPに関すること)
6. 表示方法 本報告書中の「DI」とは、「ディフュージョン・インデックス、景気動向指数」の略で、各項目について、「好転・やや好転・増加・上昇」と回答した事業者の割合から「悪化・やや悪化・減少・低下」と回答した事業者の割合を引いた数値である。
DI値が0より上の場合＝景気は上向き
DI値が0より下の場合＝景気は下向き

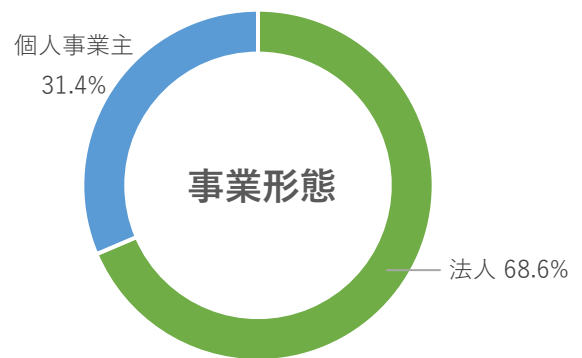
※グラフに関しては、四捨五入により合計値が100%にならない場合がある。

Q 1. 貴社の事業形態や常時使用する従業員数等について(回答数121件)

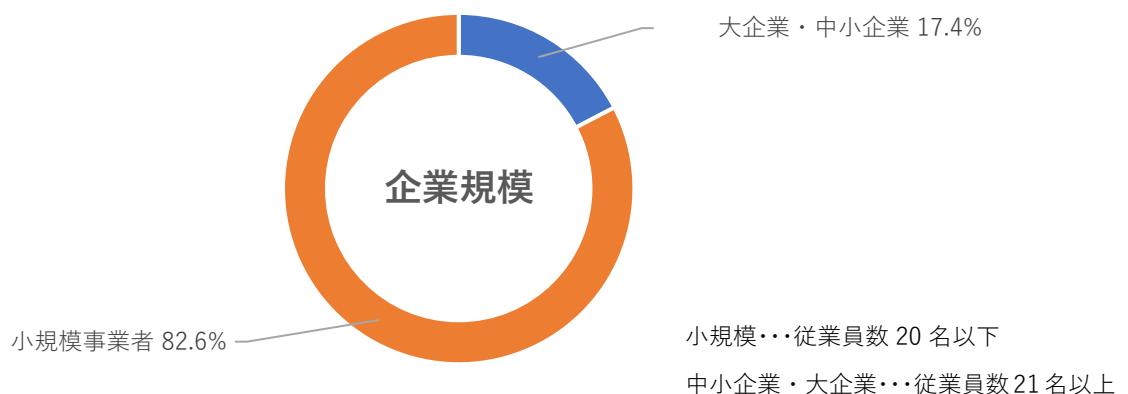
主たる業種



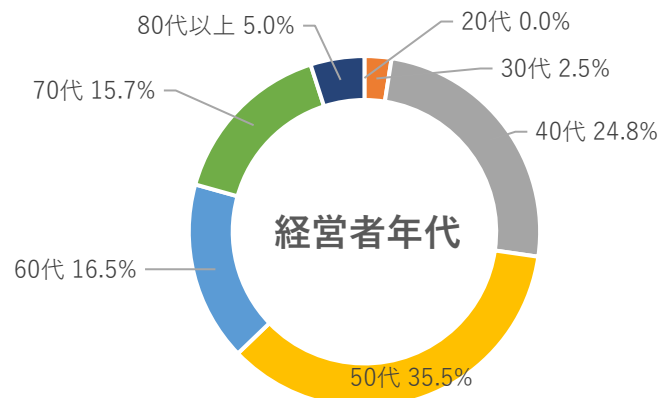
事業形態



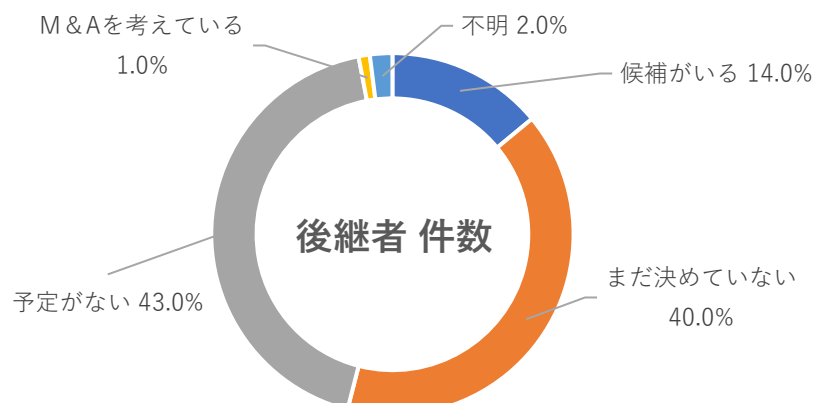
企業規模



経営者年代



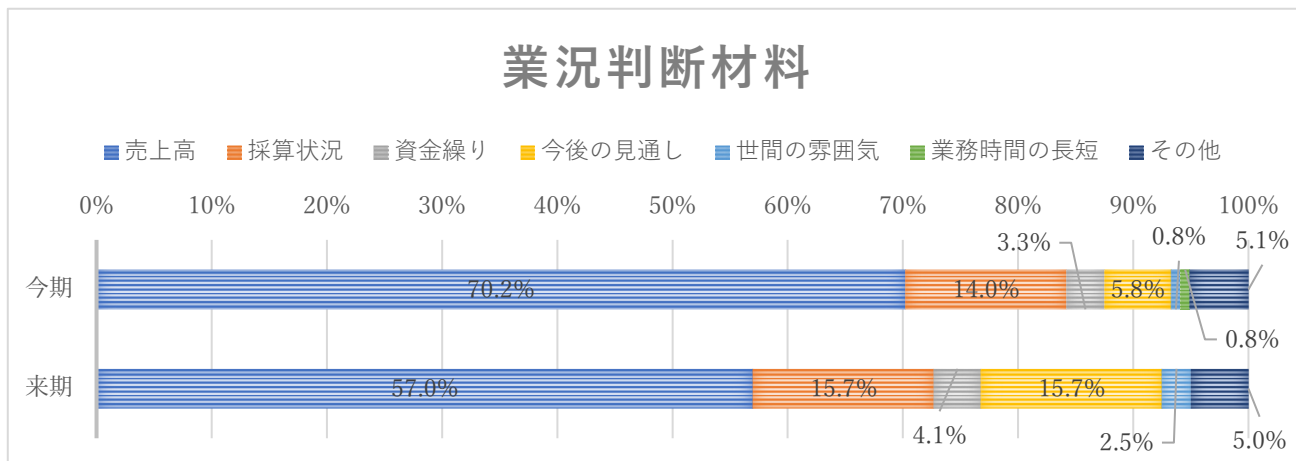
後継者 件数



Q2. 2024 年下期(7月～12月)の状況及び2025 年上期(1月～7月)の見通しについて

【概況】

全産業の業況判断D I は、49.6(前期比 11.8pt 増)となり、プラス水準域で上昇した。来期の見通しは 7.5pt 減で悪化の予測となった。他では、売上高(前期比 17.1pt 増)、仕入単価(前期比 4.5pt 減)、採算(前期比 11.8pt 増)、従業員数(前期比 1.7pt 増)、資金繰り(前期比 1.5pt 増)と全て前期と比べ好転した。



1. 2023年7～12月と比べた2024年7～12月の状況（前年同期比）

○業況判断D I (2024年7～12月期)

(ポイント)

業種別	件数	前期の業況	業況	売上高	仕入単価	採算	従業員数	資金繰り
全産業	121	37.8	49.6	43.8	77.7	17.4	1.7	21.5
建設業	19	▲ 8.3	63.2	42.1	89.5	31.6	5.3	36.8
製造業	5	50.0	20.0	0.0	100.0	0.0	▲ 20.0	40.0
卸売業	3	66.7	100.0	100.0	100.0	66.7	66.7	0.0
小売業	19	78.6	42.1	31.6	63.2	15.8	▲ 21.1	21.1
飲食業	17	37.5	41.2	47.1	100.0	0.0	▲ 11.8	11.8
宿泊業	11	70.0	27.3	27.3	81.8	▲ 9.1	0.0	9.1
サービス業	27	10.0	59.3	55.6	66.7	29.6	14.8	22.2
その他	20	44.4	50.0	50.0	65.0	15.0	10.0	20.0

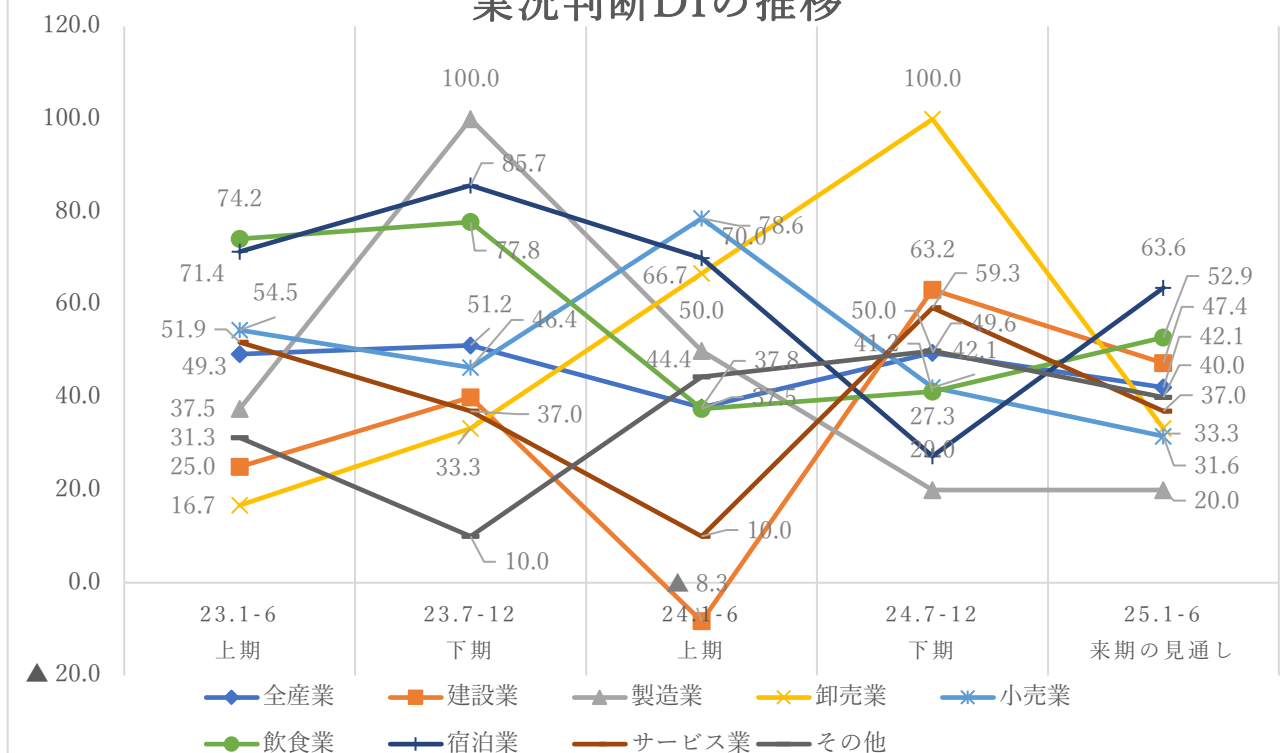
2. 2024年1～6月と比べた2025年1～6月の見通し（前年同期比）

○業況判断D I (2025年1～6月期の見通し)

(ポイント)

業種別	件数	業況	売上高	仕入単価	採算	従業員数	資金繰り
全産業	121	42.1	33.9	72.7	5.0	2.5	20.7
建設業	19	47.4	21.1	89.5	10.5	5.3	26.3
製造業	5	20.0	40.0	100.0	0.0	0.0	20.0
卸売業	3	33.3	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0
小売業	19	31.6	26.3	68.4	0.0	▲ 26.3	15.8
飲食業	17	52.9	47.1	94.1	▲ 11.8	▲ 5.9	11.8
宿泊業	11	63.6	63.6	81.8	0.0	18.2	27.3
サービス業	27	37.0	25.9	55.6	18.5	14.8	18.5
その他	20	40.0	35.0	55.0	0.0	10.0	30.0

業況判断DIの推移

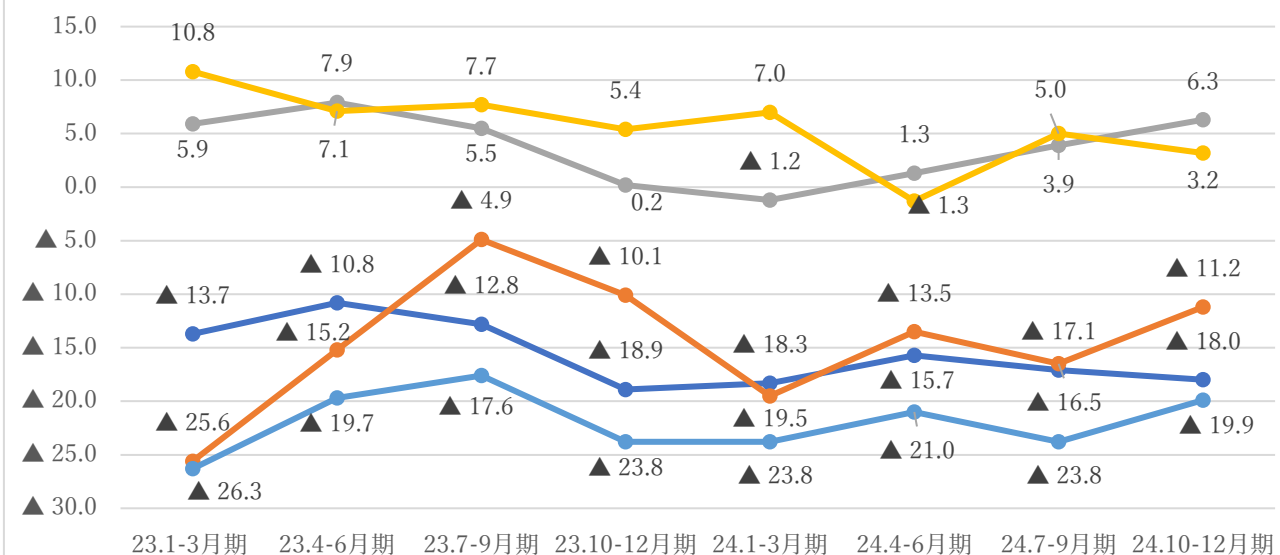


※参考資料

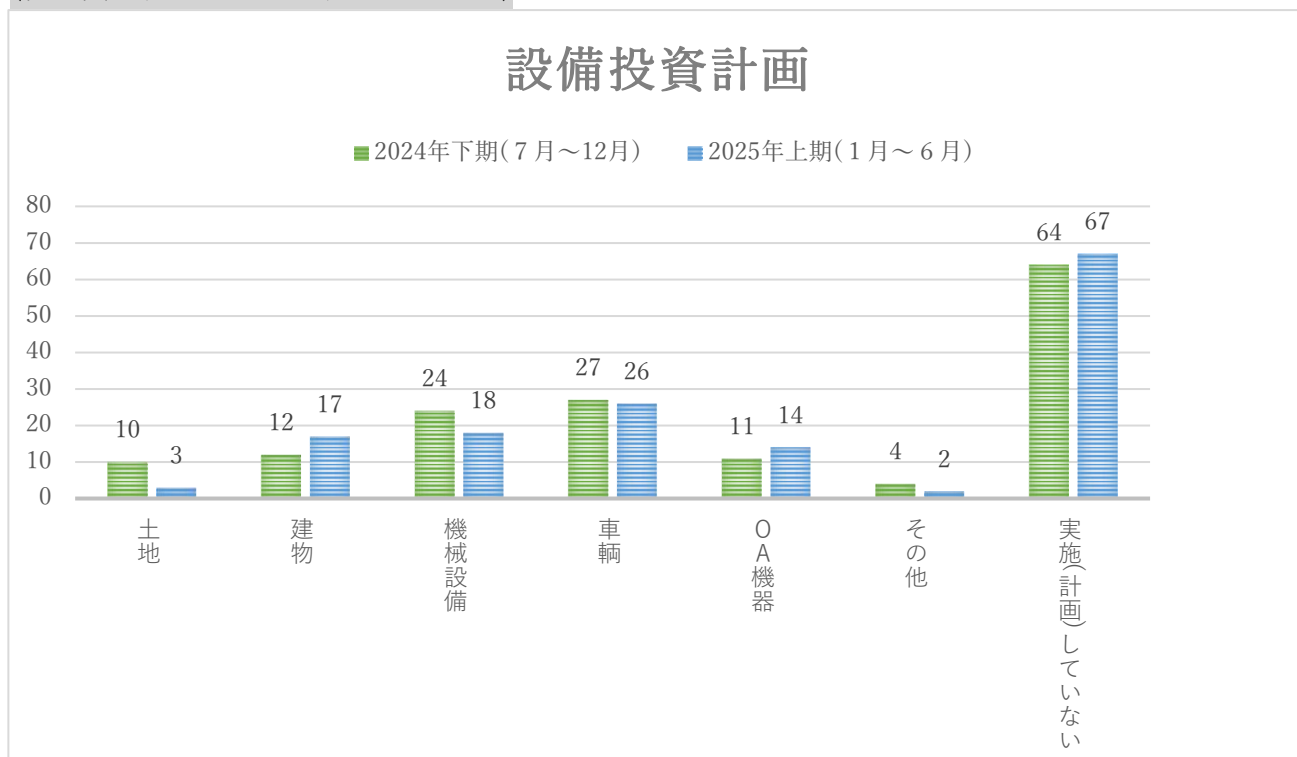
(中小企業庁、北海道商工会議所連合会、中小企業家同友会、日本政策金融公庫の景況指数の推移)

	23.1-3 月期	23.4-6 月期	23.7-9 月期	23.10-12 月期	24.1-3 月期	24.4-6 月期	24.7-9 月期	24.10-12 月期
中小企業庁	▲ 13.7	▲ 10.8	▲ 12.8	▲ 18.9	▲ 18.3	▲ 15.7	▲ 17.1	▲ 18.0
道商連	▲ 25.6	▲ 15.2	▲ 4.9	▲ 10.1	▲ 19.5	▲ 13.5	▲ 16.5	▲ 11.2
同友会	5.9	7.9	5.5	0.2	▲ 1.2	1.3	3.9	6.3
公庫(中小企業)	10.8	7.1	7.7	5.4	7.0	▲ 1.3	5.0	3.2
公庫(小規模事業者)	▲ 26.3	▲ 19.7	▲ 17.6	▲ 23.8	▲ 23.8	▲ 21.0	▲ 23.8	▲ 19.9

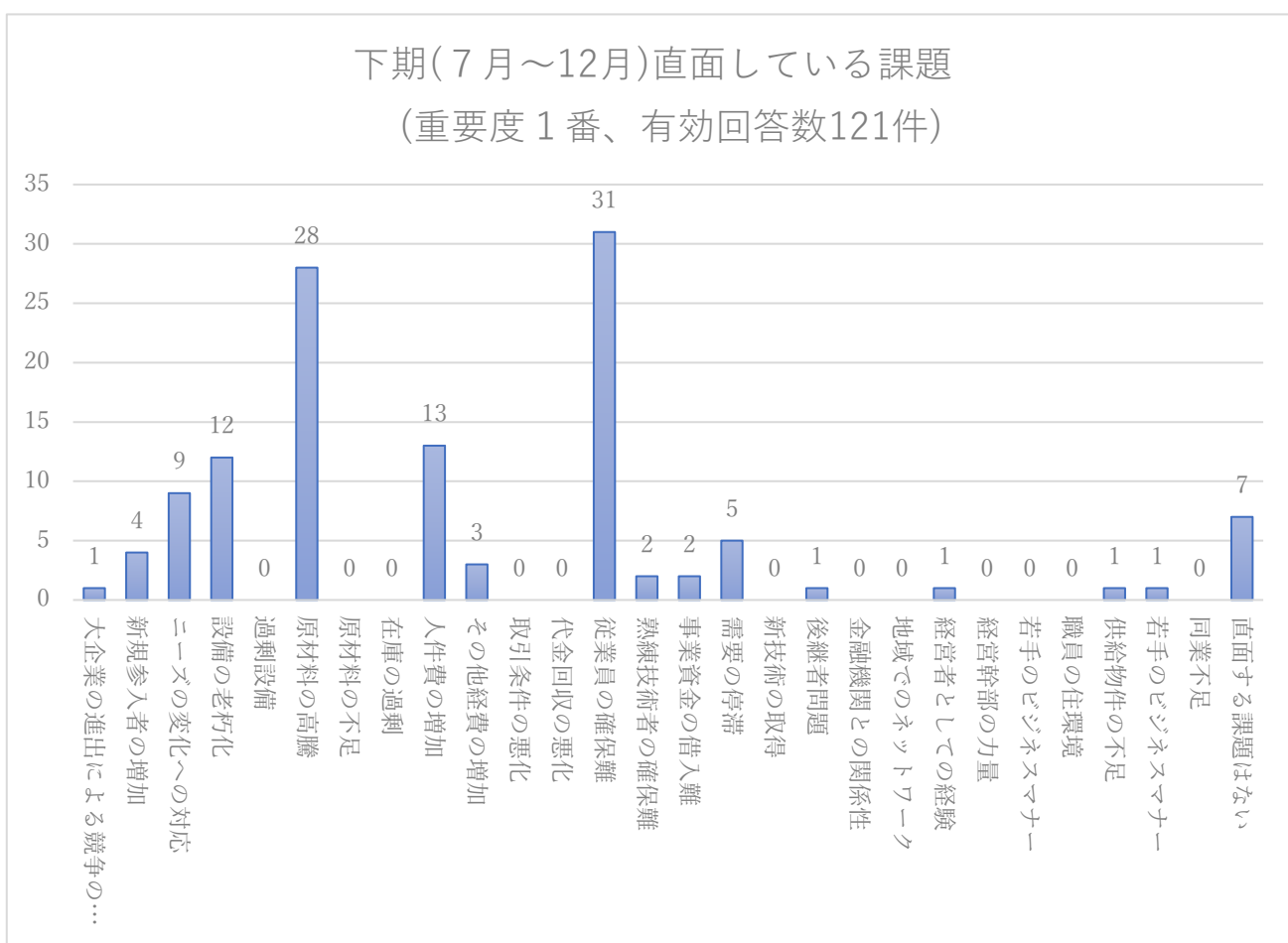
中小企業庁、北海道商工会議所連合会、中小企業家同友会、 日本政策金融公庫の景況指数の推移



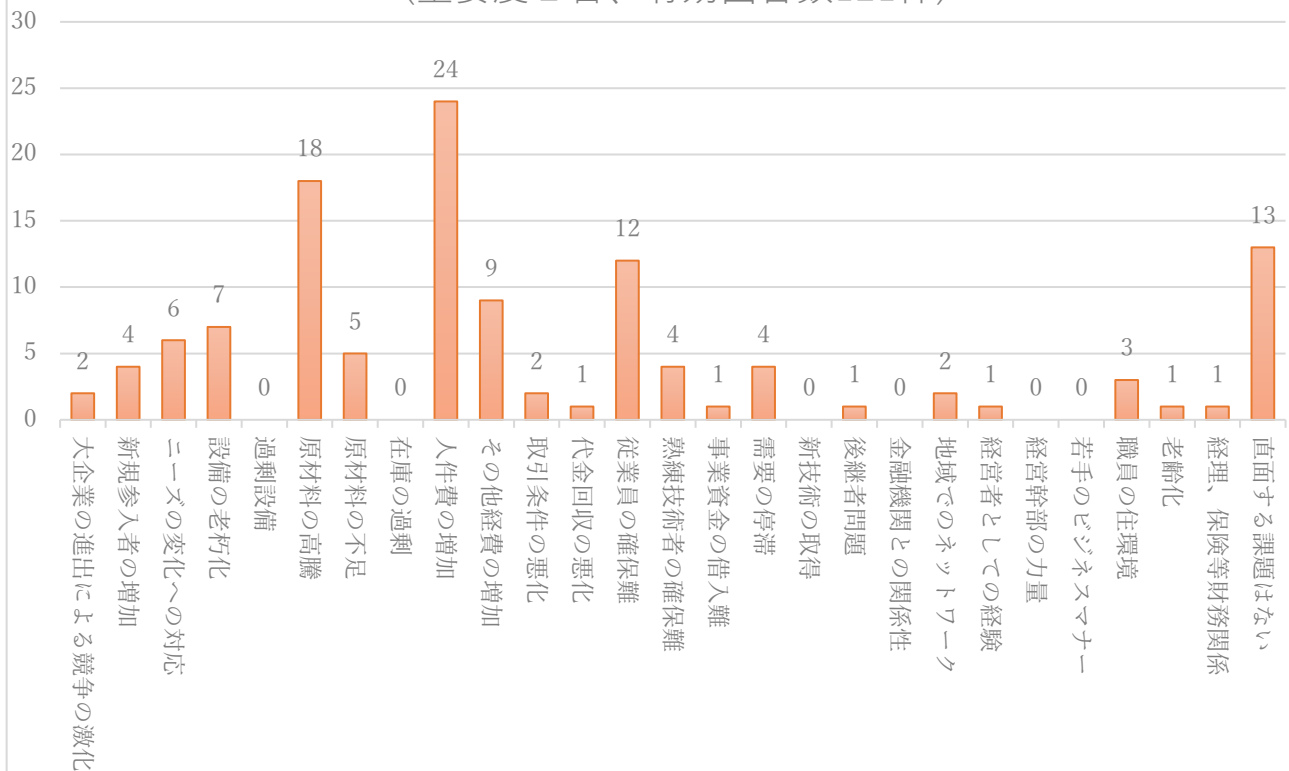
Q 3. 下期(7月～12月)及び2025年上期(1月～6月)の新規設備投資について
(複数回答、上期 152 件、下期 147 件)



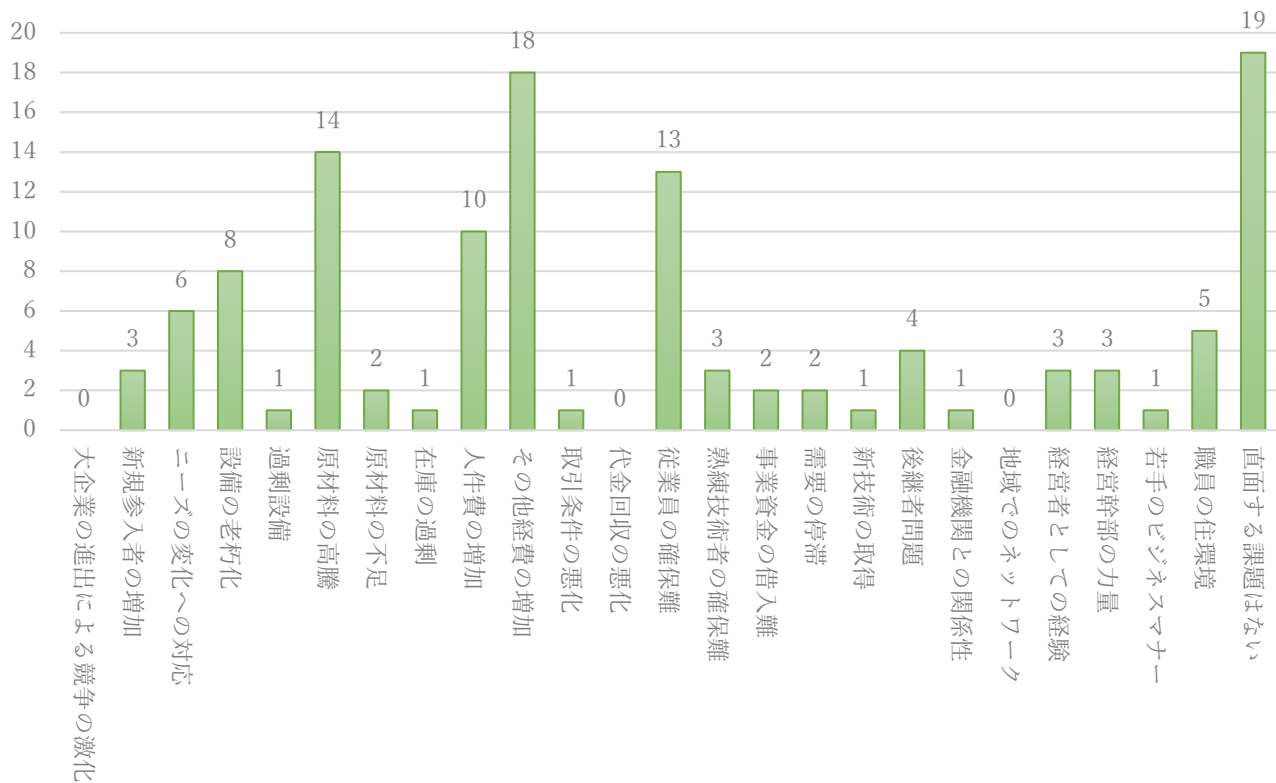
Q 4. 下期(7月～12月)直面している課題について



下期(7月～12月)直面している課題
(重要度2番、有効回答数121件)

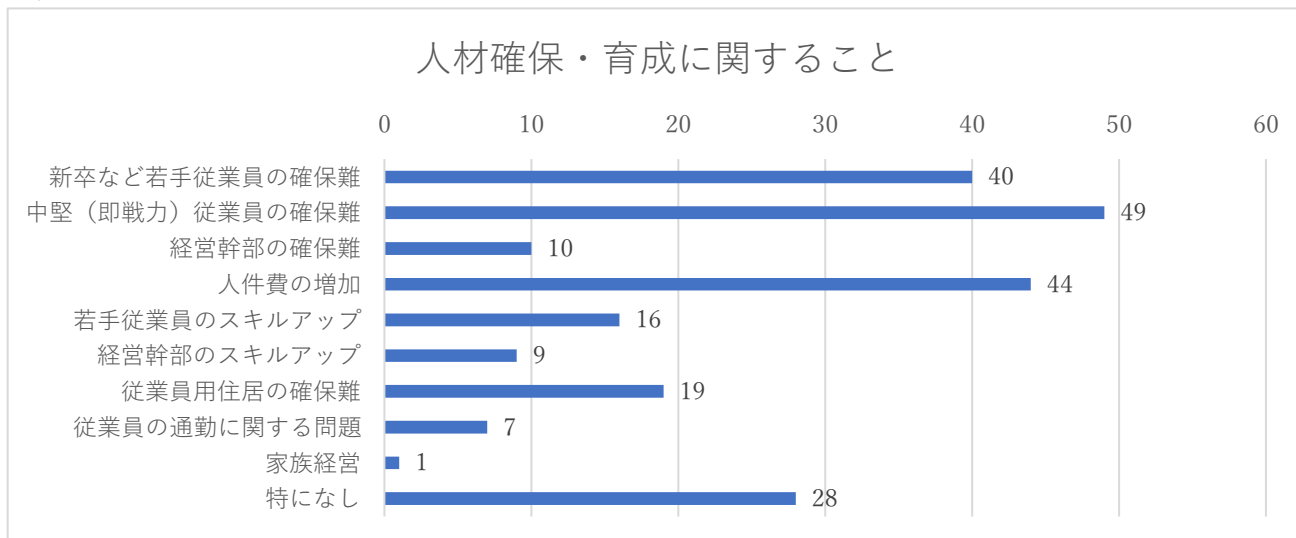


下期(7月～12月)直面している課題
(重要度3番、有効回答数121件)



Q 5. 人材確保・育成について(複数回答、回答数223件)

1. 人材確保・育成に関する課題について



2. 人材確保にあたりどのような人材を必要としているか []内は複数回答数

【専門職(経験者)】

- ・英語ができる人材[11] (英語に加え、商談[2]、営業、接客、一般事務、美容)
- ・即戦力になる人材[5]
- ・営業能力のある人材[2]
- ・料理経験がある人材[2]
- ・IT化やDX化に特化した人材[2]
- ・土木工事の施工技術者[2]
- ・営業職、技術職、経理職の3職種
- ・現場管理技術者
- ・技術者見習、技術者、管理ができる人材(現場、工務など)
- ・専門職の技術者不足
- ・調理や重機作業のスキルを兼ね備え、率先して仕事を進められるリーダー的人材
- ・顧客心理を巧みに読み取り、かつ最先端の獣医療知識の蓄積に貪欲な人材
- ・接客、運転(ハイエースクラス)ができる人材
- ・建設業で労働した経験がある人材
- ・PC操作できる人、法律に興味がある人材
- ・建築(建築士、施工監理技術者)等の有資格取得者
- ・大工仕事ができる人材
- ・技術者の確保難
- ・施設管理スタッフ
- ・外での肉体労働ができる人材、山岳リゾートで通年働きたいと思う人材

【人格】

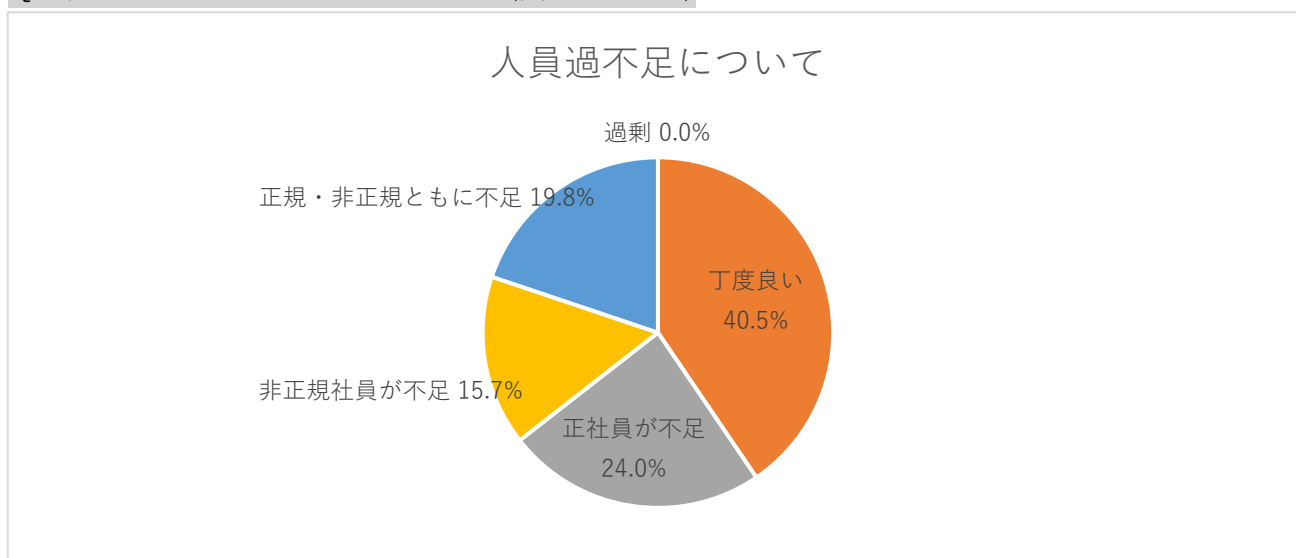
- ・主体的に行動できる人材[6]
- ・営業力、人間力の高い人材
- ・自らの成長と会社や他人のために行動できる人材

- ・笑顔で接客できる人材
- ・業務に対し、敬意をもって行動できる人材
- ・コミュニケーション能力があるスタッフ
- ・責任感のある人材

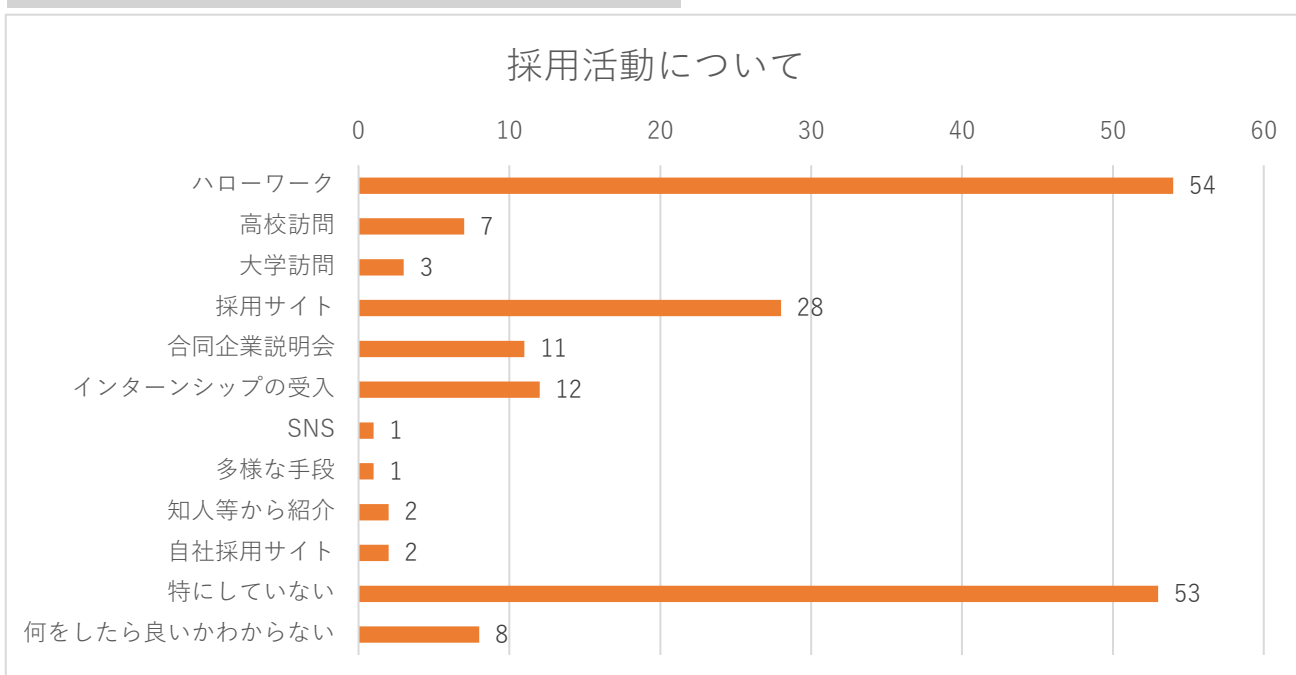
【その他】

- ・若手従業員[3]
- ・地元出身者[2]
- ・続けて働いてくれる人材
- ・オールラウンダーはいらない、一芸に秀でた人材

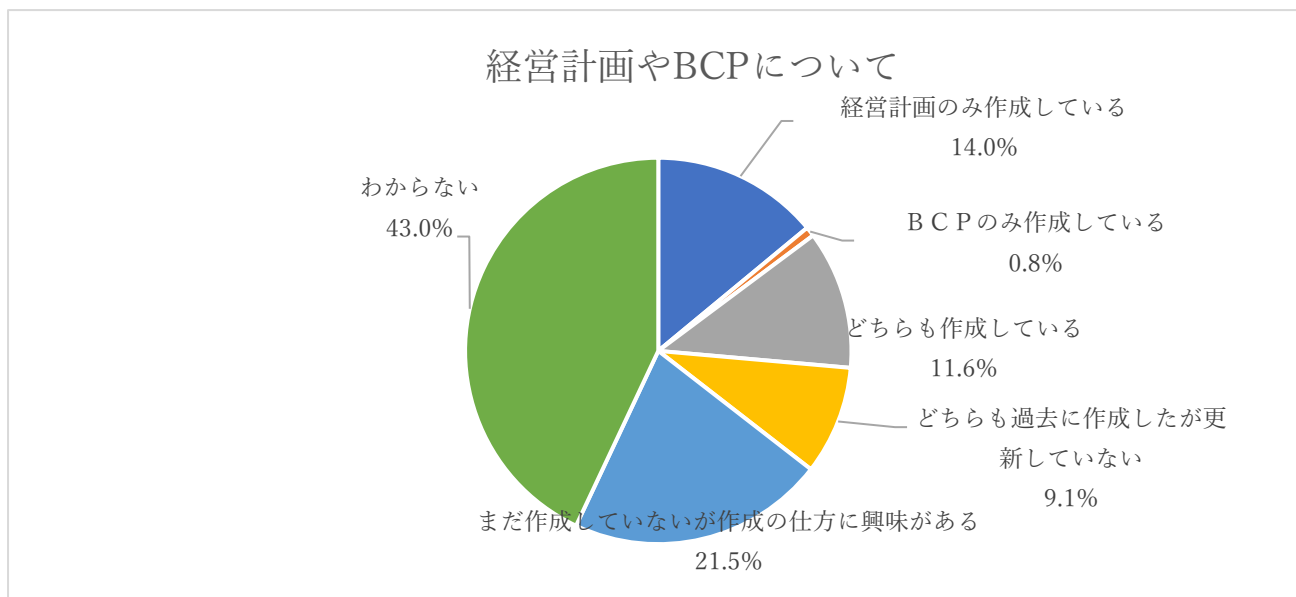
Q 6. 現時点での人員過不足について(回答数121件)



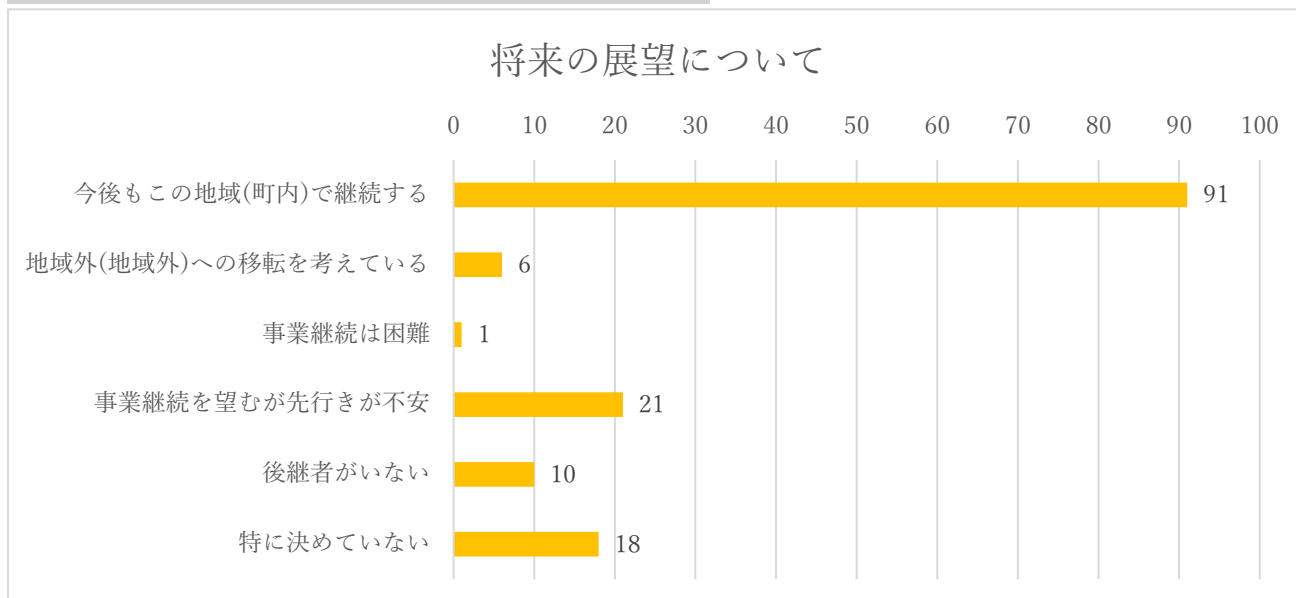
Q 7. 採用活動について(複数回答、回答数 182 件)



Q 8. 経営計画やBCPの作成状況について(回答数 121 件)



Q 9. 将来の展望について(複数回答、回答数 147 件)



Q10. 業況等に関して、その具体的な背景や状況について

【経営】

- ・資材が高騰し、業者の人手不足等により工事が順調に進まない。(建設業)
- ・昨年同様に好調を維持している。(建設業)
- ・インバウンド需要もあり倶知安、ヒラフエリアの新規顧客の増加と売上増加ができています。また、高利益商品の構成比が上がったことで利益増加に繋がっている。それに伴い、小売店の販売も好調で、冬はインバウンド観光客、夏場は国内観光客とリピート客が増加し、売上向上に繋がっている。要因としては世の中の物価高もあり、直売店などで安く買えるなどのテクニックがニュースなどで度々取り扱われていることや、キャンプブームなどにより BBQ や焼肉需要が高まっていることが考えられる。(卸売業)
- ・経費の増加が大きい。(小売業)
- ・冬季は日本人顧客層の減少により、インバウンドを意識した経営方針の変更を迫られていると感じる。また、近年の大規模施設開業や類似計画は、顧客単価の低い施設として運営されている、される可能

性が有り、更には民泊の台頭や若年層の日本人顧客のニーズの変化も見逃せないが、それに対応した施設更新には慎重にならざるを得ない。夏季の工事関係者宿泊についても大手企業の進出など経営維持への不安材料は多い。追い打ちをかける様に昨今の燃料費高騰、仕入れ額増は小規模事業者としては痛手となっている。(飲食業)

- ・新幹線、自動車専用道路の工事で、日本人の顧客が安定。観光客の増加で、飲酒を余りしない層が増加、客単価が下がり忙しさが増している。(飲食業)
- ・1～2年のうちに廃業を考えている。(サービス業)
- ・当社の業界では全国的に20年先では顧客数の減少が予想されているが、当地では競合他社の存在が希薄なためその心配はない。(サービス業)
- ・時代と共に商売、事業に変化を求められる。それについて行く事がむずかしい。(その他業種)

【雇用】

- ・顧客は増加しているが、地元での人材確保が厳しく、販路拡大に障害が出ている。(建設業)
- ・人材確保に一番、頭を悩ませている。(建設業)
- ・リゾート関係事業者が人件費などを主導されており、地場産業の継続が困難になってきている感がする。(卸売業)
- ・人員の確保難、給与レベルに仕事内容が伴わない。(小売業)
- ・希望の人材が集まらない。(飲食業)
- ・人件費の高騰で人に任せたくても任せられないので他の業務に余力を回せないのが辛い。(飲食業)
- ・課題は正規社員の確保。(サービス業)
- ・ホテルの進出が続き、住居や従業員の確保が難しくなっている。(その他業種)

【環境】

- ・マウンテンバイクのコース造成を専門に建設業をしているが、新規参入の会社が増えたり、それにより施設が利用者の数に見合わないくらい増えた結果、工事発注が停滞している。(建設業)
- ・新幹線や高速道路等開通の未透視が立たない状況での資材価格の異常な高騰が続く事が懸念される。(建設業)
- ・新幹線工事の過剰状態である。(製造業)
- ・地域における特殊要因があり、5年以降は予測がつかない。(小売業)
- ・新幹線等の公共工事が数年で終わってからの対策について、今から何を考えるべきか...10年前に戻るだけなのか悩んでいる。(小売業)
- ・外国籍の方への対応が課題である。(サービス業)
- ・外資を中心とした振興開発が続いているのが下支えになっている。(サービス業)
- ・あまりにも、ニセコが国際的に有名になったので、大手企業(飲食店・不動産業)の参入が心配である(その他業種)

【行政・自治体】

- ・人口減、町外での企業活動を予定している。(飲食業)
- ・町の窮屈化、外人が多すぎて生活仕事が思う様に進まない。(サービス業)
- ・林業の将来は明るいと思っているが、世界的な情勢に大きく影響を受けるため、不安定であり業界全体としては縮小傾向にあり、当社に対する期待は高まる方向ではあるが経営活況として、全ての仕入れ価格が上昇している中で価格転嫁が難しいのが素材生産事業者としての悩みである。よって林業のみではなくこの地域に適応した業種への展開なども視野に入れながら将来を考えている。その様な中でこの町の主体産業は観光業であると思っているがそこにばかりに偏りすぎて産業のバランスが崩れ住みやすい街からどんどん遠ざかっているのを何とかしなければ町の崩壊につながってしまうと危惧している。(その他業種)
- ・元来、収益性のある業種ではなく、営利を目的とするものではないが、開業当時から地元との交流や商工会議所とのコミュニケーションの低さがある。また、公共情報の格差を感じてきた。改善される事を期待している。(その他業種)